

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

心身健康科学科

大学院 人間総合科学研究科

心身健康科学専攻

名 前 森田 理仁

作成日 2023年9月26日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

人間行動学・生物人類学・進化生態学を専門とし、以下の授業を担当している。

【学部】「人間行動の仕組みとところ」「データ解析による心身の理解：基礎 / 実践・入門 / 実践・発展」「人類の進化」「ヒューマン：いのちと健康の関係 / 未来社会の幸福」「総合演習」※分担・予定含

【大学院】「心身健康科学特論 II」「健康情報処理学」「心身健康科学特講」「心身健康科学特殊講義」等
教育に関する全学的な活動としては、インスティテューショナル・リサーチ室にてディプロマ・ポリシー対応ループリックの集計データの分析、授業評価アンケートの質問項目の検討も担当している。

「人々の真の幸福と健康を支援する」という大学の教育理念に対しては、その根幹である「人間理解」の深化に向けて自身の専門性をいかし、人間（ヒト）について生物学的基盤と社会・文化的側面を総合的に理解することを学生に促している。そして、「右手にライセンス・左手に生きる力の獲得」という教育目標への貢献を意識し、他の教職員と協力して教育活動に従事している。

2. 理念（教育に対する考え方）

大学教員の教育面での責務は、「専門分野の教育を通して、担当するご縁があった学生一人一人の人生をさらに少しでも豊かにすること」と考えている。各学生の潜在的な能力を見出し、そして高めていくことに力を注いでいる。本学の通信制では、学生の方々のバックグラウンドや履修形態といった点で多様性に富むが、上記の理念はどのような教育場面においても共通していると考えます。

具体的な教育目標としては、現代社会が抱える諸課題（例えば、グローバル化に伴う文化間の協力と対立、情報化社会への適応、少子高齢社会での子育て、今日の男女共同参画社会と伝統的な性的役割分担観の隔たり、精神疾患の顕在化、多様性の理解と支援）を正確に把握し、それらの解決に向けて科学的知見に基づいた提言を実践的に行うことができる人材の育成を目指している。加えて、各課題の背景を多面的に理解することにも重きを置き、高い専門性と広い視野の双方の獲得を促している。指導全般を通して、柔軟な発想力、論理的な思考力・読解力・作文力、高いプレゼンテーション能力、豊かなコミュニケーション能力の養成にも努めている。

学生の皆様には是非、教職員を最大限活用して大学・大学院生活を充実させていただきたい。質問や不安が生じた際には、ポータルサイト（UHAS@My キャンパス）から各科目の担当教員、担任教員、あるいは事務局に遠慮せずに連絡していただくことを推奨する。自身が担任を務める学生の方々に対しては、些細に思われることでも気軽に尋ね、疑問や不安はその都度解決するようにしていただくことを勧めている。

また、本学においては、「日本心身健康科学会（<https://jshas.human.ac.jp>）」と連携した教育・研究活動も展開されている。私は所属の専攻にて大学院—学会連携の担当を務めており、院生が学会発表や論文発表を通して、自身の研究成果をより学術的・対外的に公表することができる環境を整えることも大切にしている。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

各学生の自主性や問題解決能力を育むことを重視し、親身でありつつも敢えて「手取り足取り」にはなり過ぎないように意識している。ただしこれは、放任主義ということでは決してない。例えば、小テストの内容についての質問を受けた際には、解説を与え過ぎず、学生が自身でさらに調べることで求

めている解答や情報になるべく自力で辿り着くことができるようになる過程を重視している。そして、学生にとっての質問の「旬」を大切にし、なるべく迅速に回答を送ることに努めている。

授業では、教員と学生間の双方向でのコミュニケーションや議論も多く取り入れ、学生の方々が能動的に学修を進めやすい環境を整えることを目指している。大学院の心身健康科学特講や心身健康科学特論Ⅱ・Ⅲ、「健康情報マネジメント養成プログラム」の科目等においては、フォーラム（ポータルサイト内に設定されたチャットのようなページ）での議論にも積極的に参加している。そこでは、専門分野の知見に基づく情報提供や議論の方向性の軌道修正に加えて、院生が孤立してしまわないようにも気を配っている。フォーラムでの議論は文字入力による非対面・非即時のコミュニケーションにならざるを得ないため、物事の本質を問いつつも言葉遣いには慎重を期し、指導内容が建設的なものとなることも強く意識している。

これらの方法に見られる「付かず離れず」の姿勢は、本学の建学の精神にある「自立と共生の心の涵養」に繋がるものである。

前項で述べた「各課題の背景を多面的に理解することにも重きを置く」という理念に対しては、授業では「人間の中に潜む生物学的基盤」「研究の方法論（データ収集、統計解析、研究倫理、成果発表のプロセス）」「科学と社会の関係」といった話題を適宜取り入れることで、実現を図っている。テキスト履修とインターネット授業履修の両方の形態が設定されている科目においては、後者でこの傾向を強くしており、基礎的な事項は共通させつつも学修内容や位置付けの差別化も行っている。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

上記の理念と方法に対して、学生の方々からはおおむね良い評価を得ている。具体的には、授業評価アンケートにおいて以下の記述があった。（内容はそのままに、文言や表現を調整してまとめ直した。）

- ・実際の研究例の紹介が豊富であった
- ・講義の中で問いを実際に考える時間もあった
- ・授業のスライドがわかりやすかった
- ・今まで受けた授業の中で一番興味をもった授業だった
- ・質問に丁寧に対応してもらえて助かった。単位は修得できなかったのもまたチャレンジしたい。

最後のものについては、単位修得の成否に関わらず授業の内容を好意的に捉え、学修意欲を維持・向上していただくことができたとうかがえる。一方で、

・配布資料が多く要点がわかりづらかった

・教科書のみでは十分に理解できない内容があった

といった指摘も受けたので、改善に取り組みたい。

研究指導においては、学部の「総合演習」では担当した学生の方が大学院に興味をもち、学内推薦にて進学された。また、卒業後の学位授与機構への申請により、学士（看護学）の取得にも成功された。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

短期目標は、担当するインターネット授業履修科目の講義映像をすべて新しいものに切り替えることである（担当は4科目、分担分を除き合計32コマ）。昨年度から取り組んでおり、2023年度中には完了する見込みである。

中期目標としては、本学での学部—大学院の連携への注力を挙げる。自身が総合演習の指導を担当する学部生を中心に、学修・研究を通して大学院への進学にも興味をもっていただきやすいように指導の方略を工夫する。これにより、学生の方々に生涯学習の機会を広く提供したい。

【添付資料】

ティーチング・ポートフォリオの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料

- ・ 2023 年度シラバス
- ・ 2023 年度授業評価アンケート
- ・ UHAS@My キャンパスにて公開している各科目の配布資料